

令和6年度 地歴公民科「世界史教養」シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 3学年 4.6組
教科書	詳説世界史 (山川出版社)	副教材等	

1 学習の到達目標

中国およびその周辺諸地域の歴史について基本的な事項を押さえ、大きな全体の流れをつかむ学習をすることにより、歴史的なものの見方を身につけます。また、1学年時に学んだ歴史総合の知識や、現在学んでいる世界史探究の知識を元に、今日の世界にはどのような課題があるのか考察力を養い、国際社会に生きる人間としての自覚と資質を養います。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価方法
第1学期	4	文明の誕生 中国の古代文明 秦・漢帝国	中華文明の形成 秦漢帝国と東アジア	・中華文明の形成と秦漢の成立について理解する。 ・秦漢帝国の成立により東アジアの中華王朝と東アジア文化圏が形づくられたことに理解する。	中国の農耕文明と、殷周の初期王朝の成立、中華帝国の原型となった秦漢時代に関する基本的知識を身につけている。
	5	中国の動乱と変容 東アジア文化圏形成 アジア諸地域の自立化と宋	ユーラシアの変動と東アジア世界	・魏晋南北朝から隋・唐・宋の展開と周辺諸民族との関係を理解し、科挙官僚に支えられる皇帝独裁体制へと移行していくことを理解する。	魏晋南北朝から隋唐帝国の国家制度と文化、日本を含む東アジア世界諸国との関係について理解している。
	6	モンゴルの大帝国	宋の社会・文化 モンゴル世界帝国の出現	・宋の興亡と社会・文化の特色、モンゴル帝国の出現から滅亡までを理解する。元寇についてはモンゴル民族の側から考察する。	宋の統治体制と文化、モンゴル帝国が掌握した東アジアと内陸アジアに及ぶネットワークについて関心をもって学習しようとしている。
	7	期末考査			
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価方法
第2学期	9	アジア交易世界の興隆	明の国際秩序と東アジア	・明・清の成立過程及び皇帝独裁体制の完成について理解する。	中華帝国を再現した明朝政府の動向と大交易時代の東アジア世界を理解し、清朝が形成した広大な領域支配と東アジア諸地域の動向を理解している。
	10	清代の中国と隣接諸地域	世界帝国清とアジア諸国の成熟		
	11	東アジアの激動 列強の世界分割と 列強体制の二分化 アジア諸国の変革と 民族運動	東アジア諸国の変容と 模索	・東アジアが欧米列強の攻勢にさらされた状況と清朝の対応について理解すると共に、列強による中国分割の過程と特徴、対立関係をまとめる。	アヘン戦争やロシアの進出による清朝の動揺と近代化への取り組みについて基本的な知識を深めている。 東アジア諸国が19世紀後半に置かれていた立場を整理できている。
	12	第一次世界大戦と ロシア革命 アジア・アフリカ地域の 民族運動 第二次世界大戦 新しい国際秩序の 形成	第一次世界大戦とアジア のナショナリズムの展開 第二次世界大戦と その惨禍	・第一次世界大戦と中国のナショナリズムの展開を理解し、民族運動家が中国伝統文化にどのような態度をとったかについて考察する。 ・満州事変から日中戦争の終結及び戦後までをまとめる。	コラムを活用して中国のナショナリズムについての知識を深めている。
12	期末考査				
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価方法
第3学期	1	冷戦の展開 冷戦体制の動揺 冷戦の終結 今日の世界 現代文明の諸相	中華人民共和国の成立	共産党と国民党の内戦を検証し、中華人民共和国の建国について理解する。また、現代の国際情勢へとつながる歴史の流れを考察する。	中華人民共和国の成り立ちや現在の姿について、資料を適切に活用して時系列で的確に理解している。

3 評価の観点

知識・技能	中国の歴史的事象について、周辺地域と中国との関係を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成にも関わる歴史の流れを理解すると共に、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。また、単なる暗記ではなく、歴史的過程の背後にある原因や結果を理解し、史実を公正に判断して、発表の機会には表現できる。

主体的に学習に取り組む態度	歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究・解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される歴史的感覚、隣国の歴史に対する理解、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。また、授業態度が良好で、発問に積極的に答え、授業時間に遅れずに取り組んでいる。
---------------	--

4 評価の方法

<p>知識・技能：定期考査、小テスト</p> <p>思考・判断・表現：定期考査、レポート課題、グループワーク、発表、学習の振り返り</p> <p>主体的に取り組む態度：出席状況、ノート提出、発表・質問、レポート課題、グループワーク</p>

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

<ul style="list-style-type: none"> ・世界史の学習は、細かい年号や人名を覚えることではありません。ある程度の基本的な知識や事柄をおさえながら、歴史的な出来事 の背景や、世界とのつながりの中で、常に多角的な見方ができるように学んでいきましょう。 ・何より大切なことは、授業を休まないことです。そして、お互いにより楽しく、深く、授業を進めていくためには、授業開始時の時 間を守り、チャイムがなる前に準備をして着席しているように心がけましょう。
--